

Håfa Adai

グアム日本人学校（全日制）学校だより
平成29（2017）年9月29日
教務主任（図書主任） 藤高 論子



<5月に行った読み聞かせ>

10月は読書月間

10月は読書月間です。読書月間では、次のことをねらいとし、取り組みます。

- 読書意欲を高め、読書習慣を身に付ける。
- いろいろな本を読み、本に親しみ、読む力を高めるきっかけとする。

読書は子どもの将来を左右する基礎を築くもののひとつであると言われます。では、実際には、どのような効果があるのでしょうか。下記のような5つの効果が期待できます。

- ◇語彙・言語能力の発達する
- ◇集中力がつく
- ◇想像力・感受性が豊かになる
- ◇ストレスの解消ができる
- ◇人の気持ちが分かるようになる

『カラフル』『DIVE!!』などの著者である小説家、森江都氏は、読書について次のように語っています。

「私はかつて、あまり本を読まない中学生でした。「読書は大事」「本はためになる。」などと言われても、何がどう大事なのか、ちょっとピンときませんでしたし、ためになる、なんて考え方自体、ひどく分別くさいと思っていました。

本を読むより、友達と遊んだほうがいい。一人でいるより誰かといたい、そうやって読書に背中を向けていたのです。（中略）

小説に登場する人物というのは、なにかしら自分と似た悩みを抱えているものです。そして自分と同じように、それをうまく解決できずにジタバタしたり、立ち尽くしたりしている。ささいなことで人から傷つけられたり、傷つけてしまったり。

もしもあなたが本の中で心から共鳴できる誰かと出会ったら、それは、自分の外側ではなく、内側に友達を作ったということです。あなたと共に悩み、答えを求めてくれる強力な味方。彼らはあなたに思いもよらない考え方を示したり、見たことのない風景を見せてくれたりするでしょう。あなたを揺さぶり、笑わせ、泣かせ、未知なるときめきを与えてくれることでしょう。

「読み終えて本を閉じたとき、前とは違う自分がある。凝り固まっていた心が開け、新しい目で世界と向き合える。」ためになるってそういうことかなと、今の私は思います。（森絵都『ためになるってどんなこと？』より）

国語の教科書には、読書案内のページが設けられ、学年段階に応じた推薦図書が写真とあらすじを付けて掲載されています。学校図書館にも、それらの本をできるだけ取り入れるようにしています。あらすじを読んでみて心惹かれた本があれば、ぜひ手に取って、読んでみてほしいと思います。実生活では味わえない楽しみや感動を与えてくれる1冊との出会いがあるかもしれません。

日本では、読書の秋。グアムでの秋の夜、親子で本の世界にたっぷりと浸ってみるのも豊かな時間の過ごし方ではないでしょうか。語彙を豊かにするだけでなく、心を耕し想像力を豊かにする読書の時間を、学校でも大事にしていきたいと思います。

2017年度9月末までに、毎年いただいているJTBグローバルファンデーション様・全日制PTA・補習校PTAからのご寄付で新書81冊の購入をはじめ、保護者の方々から等、約500冊の本が図書室に並びました。沢山の素敵な本をありがとうございます。海外子女教育振興財団 ・フリーマーケットより
越川様 ・スペンス様 ・亀井様
堀川様 ・クリスフォルド様 ・久米川様
エトワード先生 ・石井先生
芝端先生 ・事務の川崎様
中村様（関西学院大学 学生）